47.15后108

江、近、森、武、本、宮

石見国・人丸耕一
宮本武蔵追記
吉川英治

英治鑑賞

そのを書くといよ仕事は生活を深めさせて
ばくれるか、同時に、人生を短くするやうに
も思はれてならない。
偉業宮本武蔵のばしごが出に、私はさう書い

〔 1 〕

たが、偽りない気もちである。四年ごしの連載小説を、どうやら毎日に絶って、身辺を、社会を、国家を、見まはしてみると、一小説に没頭してゐるまに、余の性格の長所なのに、今更のやうに悔かされる。

あまり長い小説ほど命に書いてゐると、自分がばかになるんぢやないか？

正直、私は今、そんな気もちから抜け出ようとしてゐる。

私の執筆を、たとえ、一時、中止しても、私は、新しい、新しい、新しい